

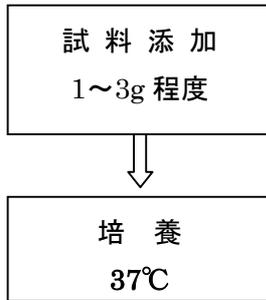
O157 用 SensiMedia 使用説明書

マイクロバイオ株式会社

1. 特徴

この SensiMedia は、検体中の O157 を選択的に検出できるようにしたものです。

2. 検査の手順

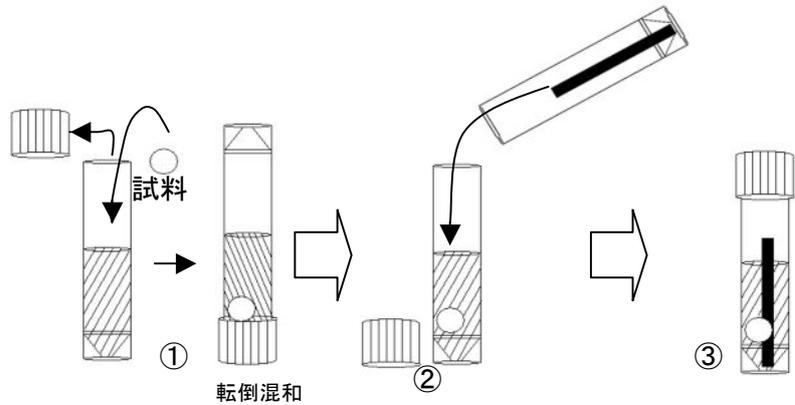


培養温度

37°Cで培養してください。

試料添加

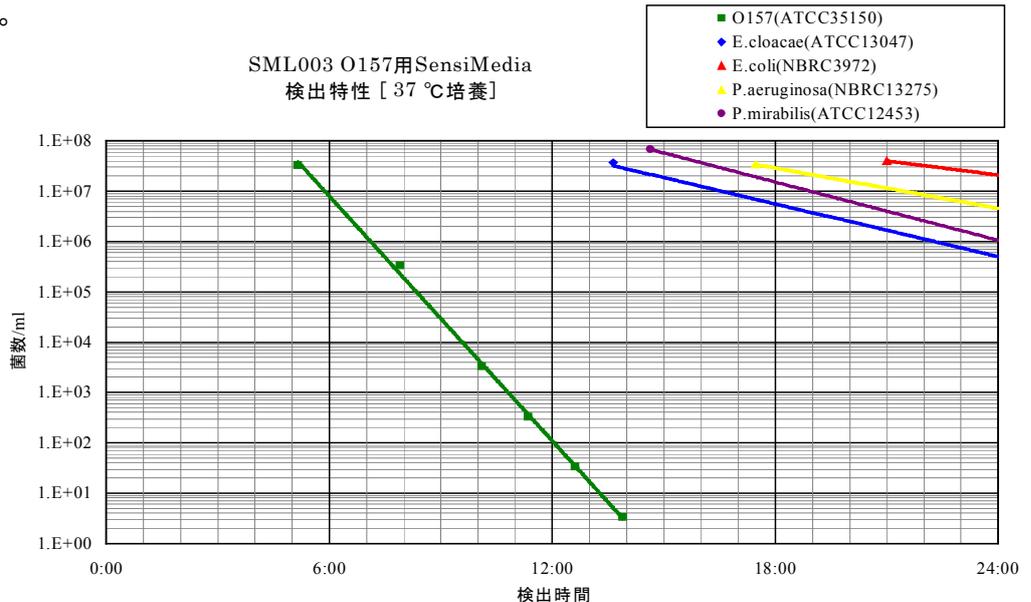
- ① SensiMedia のキャップを開け、試料を 1~3g 程度を添加します。
その後、転倒混和させます。
- ② センサー側のキャップを開けセンサーを直接 SensiMedia に入れます。
- ③ キャップを締めて、インキュベーターに入れます。



3. 判定基準

標準菌株による特性は下図に示すとおりですので、試料及び危惧される微生物を用い、これを参考にプロトコルを設定してご使用ください。通常、24 時間程度経過後でも、センサーが青色のままであれば、O157 について陰性と判断できます。陽性のときは、センサーが黄色透明になります。

センサーが黄色透明に反応する場合は、O157 の混在が疑われますので次項のインドール確認試験を行って下さい。



発育阻止

- ・ S. aureus(ATCC25923)
- ・ C. freundii(ATCC12681)
- ・ A. hydrophila(ATCC7966)

発育抑制

- ・ S. typhimurium(ATCC14028)
- ・ K. pneumoniae(ATCC33495)
- ・ E. coli(ATCC25922)

病原性大腸菌 O157 および類似菌との鑑別手順説明書

試料を添加した O157 用 SensiMedia を使用方法に従い検査した結果、24 時間程度経過後に陽性となった場合はその検体について以下の手順に従って確認試験を実施して下さい。

インドール確認試験

試験薬の添加	24 時間程度経過後に陽性となった SensiMedia チューブの蓋を開け、コバック試薬を 0.5～1ml 添加する。
発色の確認判定	1 分間静置後、上層部分（試薬液層）の色調の変化を確認する。 赤色～濃赤色：インドール反応陽性 黄色～ピンク色：インドール反応陰性

注意：コバック試薬を添加後、培地成分と混合されると判定ができない場合がありますのでご注意ください。また、反応時間については最大 3 分間としそれ以上の反応は避けて下さい。

参考：使用する試薬メーカーと価格

DADE BEHRING Kovac's Reagent 30ml Cat.# B1010-41A 2100 円程度

結果写真) 病原性大腸菌 O157 および類似菌との鑑別

O157 (E.coli O157) エンテロバクター菌 (Enterobacter.spp) プロテウス (Proteus.spp) 緑膿菌 (P.aeruginosa)



No.	菌種	発育性	インドール反応
1	<i>E. coli O157</i>	◎	+
2	<i>Enterobacter.spp</i>	○	-
3	<i>Proteus.spp</i>	○	d
4	<i>P.aeruginosa</i>	○	-

注意 d: *P.vulgris* 以外は陰性

確認同定試験

以上の結果から *E. coli* O157 が疑われた場合、更に、生化学的試験および血清学的試験等の確認同定を実施して下さい。